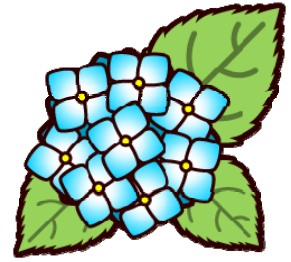


マルトミです

日頃のご愛顧に心より御礼申し上げます。



お知らせ

- ☆ 今年も春から天候不順で、5月になっても寒い日が多かったりしていましたが、ようやく初夏らしい陽気になりました。草刈りのシーズン到来ですが、くれぐれも怪我や事故などのないよう気をつけて安全に作業していただきますようお願い致します。
- ☆ 7月6日・7日は恒例の夏の感謝祭を開催いたします。7日の日曜日は緑の市場もオープンしますので、ぜひ皆さままでお出かけ下さい。
- ☆ 6月14～16日と8月10日～15日は休業とさせていただきます。ご迷惑をおかけし申し訳ありませんが、何卒よろしくお願い致します。
なお、その間、お急ぎの場合は090-4709-7489（富取）までご連絡願います。

マルトミカレンダー（6月～8月） 赤色は休業日

6月							7月							8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1	1	2	3	4	5	6					1	2	3	
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31
30																				

6・7 夏の感謝祭

10～15日 夏期休業



株式会社 マルトミ

本社：上越市西田中236-9(企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

E-mail: info@maru-takada.com

ホームページ www.maru-takada.com

たまには農機具屋らしく農業資材の宣伝を。

とくに、これからお米の直販をお考えの方に、ミズホのMリン農法をおすすめします。まずは資料をご請求ください。青田指導など、勉強会も実施しています。



イメージキャラクター
ミズホ君

食べる健康！美味しいは安全！

Mリン農法とは、リン酸の肥効を高めることで、従来の技術では困難であった、作物が吸収する養分バランスを整える農法です。有機の長所も活かし作物を健全に生育させ、無農薬栽培が可能になります。気象条件に左右されない、安定多収・高品質な農産物の生産ができます。



Mリン農法により、作物のリン酸吸収が促進され、光合成能力を向上します。

その結果、耐病率が高まり食味で重要な「糖度」も上昇します。

(一般農産物に比べ、2度～5度上昇)

食味の向上と共に、鮮度保持にも飛躍的な効果があり結果として高品質を実現可能にします。

Mリン農法により、天候に左右されない「安定多収」が可能になります。

一般に不作の原因となるのは、多雨時によるチッ素過多と根腐れ、日照不足時の光合成不良(炭素率の低下)、低温時の生育不良があげられます。これらの原因に対応できる生育調整の資材と技術が整っており、悪天候でも多収穫が可能となります。

Mリン農法により、作物をバランスよく生育させます。

いわゆる作物を「強固」に作ることによって、耐病性が増し、低農薬栽培が可能となり、農薬代を大幅に軽減できます。低コストの第一は、「不必要な資材を使わない」事です。Mリン農法では、土壤改良材(ケイカル・熔リン・石灰チッ素等)や、化学肥料を改めて、有機による土づくりを行い、肥効的にも優れた安価な単肥を上手に使いこなしていきます。

草刈り作業を安全に行うために

本格的な草刈りのシーズンを迎え、刈払機を使う機会も多くなっています。安全な作業のための大切なポイントをあげておきますので、ご参考にしてください。

- ① すそじまり・そでじまりの良い草刈作業に適した服装に加え、保護メガネ・防振手袋・作業靴などを着用する。
- ② 作業前に各部の点検を行う(特に刈刃の取付状況)。
- ③ エンジン始動時には、刈刃が地面に触れていないかを確認する。
- ④ 刈刃を地面に当てて小石などを飛ばさないよう注意する。
- ⑤ 傾斜地での作業は一步步足場を確認してすべらないように行う。
- ⑥ 操作カンを離すときは必ずエンジンを止める
- ⑦ 機械の調子が悪くなったらすぐに作業をやめてエンジンを止める。



除雪機のご予約は、どうかお早目をお願いします

昨シーズンも、除雪機がメーカーを問わず早くから品切れとなり、大変ご迷惑をおかけしました。幸い雪の方は前の冬ほどではありませんでしたが、今後も年によって変動はあっても上越では雪が積もって当たり前という認識に加え、どうせ買うなら消費税のアップ前にというお考えもあってか、今年も春から除雪機の御予約をたくさんいただいています。

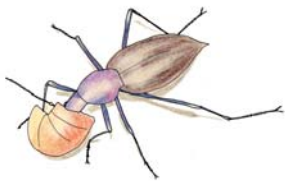


Photo: H5760 (JS)

そんな状況ですので、今年も除雪機は早いうちに品切れとなってしまうそうです。これから夏になるという時期に誠に恐縮ではありますが、ぜひすべての機種がご用意できる今のうちに、見て、触れて、聞いて、御自身に最適な除雪機を選びご予約下さいますようお願い致します。

「虫展」高田郵便局ロビーにて8月開催

昨年9月に富取が高田郵便局で「陸と海の甲殻展」を開催しましたが、今年も8月5日から31日まで、同じ会場で展示会を行います。前回は甲虫とウニ・カニを展示しましたが、今回は昆虫にテーマを絞り、標本と、毎回「マルトミです」にカットを描いて頂いている高橋桃子さんのイラストによる「虫展」となります。



前回同様、他では見られないような標本もいろいろ展示する予定で、また、虫が苦手な方でも高橋さんのイラストはきっとお楽しみいただけると思いますので、ぜひご覧ください。

お客様訪問

妙高市 今井左吉さん

今井左吉(さよし)さんは旧妙高高原町の杉野沢で民宿と農業経営をされています。

昭和39年この地にスキー場ができた時に45軒で始まった民宿は、スキーブームとともにその数を増やし一時は100軒にまでなりましたが、その後次第に減って、現在は40軒ほどになっています。でも、スタート時からのメンバーである今井さんの民宿日乃出屋は、今も変わらずに営業を続けておられます。スキー場にかつての賑わいはありませんが、泊りに来られるお客様は毎年変わらないそうで、今井さんはじめスタッフのみなさんのお人柄と、飾らない民宿の居心地の良さがリピート客の多さに繋がっているのでしょう。



農業のほうは、耕作面積が稲2.5ヘクタール、ソバ1ヘクタールで、杉野沢地区で1番の広さだそうです。民宿で出される米と野菜は全部自家製というのも人気の理由に違いありません。

杉ノ原スキー場まで徒歩3分の日乃出屋。皆さんもぜひご利用ください。

(民宿日乃出屋 妙高市杉野沢 1970 TEL0255-86-6122)

カキツバタ 青色の風景

5月20日過ぎのこと久しぶりに三和区にある「吉田の谷内」へ行ってみました。折から野生のカキツバタの花が盛りで、他に人はおらず、ジュンサイの葉の浮かぶ水面を背景に、群青の花の波に囲まれて、日常の喧騒とは無縁のひっそりとした風景が広がってありました。

ところで、よく耳にする「いずれアヤメかカキツバタ....」、ともに美しく区別がつけにくいことを表す成句ですが、花があれば両者の区別は簡単で、外側の三枚の花弁の根元の部分が網目模様になっているのがアヤメ、白く細いクサビ型に色が抜けているのがカキツバタ。生えている場所もアヤメはやや乾いた草原を好むのに対し、カキツバタは湿地に生え乾燥を嫌います。このほか近い仲間として、花の色が赤みを帯びた紫で花弁の中央が黄色いノハナショウブがあり、江戸時代に改良が進み各地の水辺に植えられているハナショウブはこれが元になっています。ふしぎなことにカキツバタには園芸品種がほとんど無く、白花やカスリ模様のものが数種知られているのみです。

里近くに群生するカキツバタは古くから人目に触れやすかったのでしょう。カキツバタの名所は各地にたくさんあったことと思います。なかでも京都市上賀茂の大田神社の群生地は有名で、天然記念物に指定され今も見学者が絶えないそうですが、なんと平安時代の和歌にも読まれているというのですから驚きです。もう一つ京都のカキツバタにまつわる話ですが、洛北の左京区広川原杓子屋町には珍しい四季咲きのカキツバタがあり、これも平安初期、藤原氏専横の犠牲となった惟喬親王が隠棲のつれづれに植えたという由緒をもち、代々「杜若（かきつばた）」という姓の人によって守り継がれてきたのだそうで、こんな話がいまでも続いているというのが京都という町の底知れぬところですね。

カキツバタという名前は「描き付け花」によっており、この花をむかし直接衣に擦り付けて色模様としたことによるものといわれていますが、ツユクサと同じように、この青色も儂くうつろいやすいものだったことでしょう。



ところで谷内（やち）という言葉は谷の出口にあって、背後の山林からの湧き水がたまった湿地のことをいい、カキツバタのほかミツガシワやタヌキモなど貴重な湿生植物や水生昆虫の生息地となっています。三和区には似たような場所が数箇所あり、自然保護区に指定されているところもありますが、次世代に引き継ぐべき貴重な自然遺産といえるでしょう。 (ハ)